

●マリア福音姉妹会 ●愛の炎、セヴェリン氏



皆様、お元気でいらっしゃいますか？

北半球は今、日照時間が最も長い時ですが、ドイツでは夜の11時すぎまで明るさが残るようになりました。昨日はノルウェーから来た姉妹に会いましたが、あちらはすっかり白夜だそうです。

今回は、メルマガの発送が遅くなってしまいましたことをどうぞお許してください。実は、先週、ダルムシュタット市のマリア福音姉妹会にて、静思の時を持たせていただきました。今日は、そこでの素晴らしいひとときのことを、お分かちさ

せていただきます。

(写真: マリア福音姉妹会=カナンバラ)

●カナン(マリア福音姉妹会)のひととき

プロテスタントの共同体であるマリア福音姉妹会は、今年、創立60周年を迎えました。「カナン」と名付けられた広大な敷地と、そこに整えられた庭園や建物、モニュメントのすべては、創設者のふたりのマザーとシスターたちの信仰の祈りによって、無から有を生み出す神が豊かに与えてくださったものです。



私が訪れた時には、あちこちに赤、白、ピンクの美しいバラが見事に咲きほころび、菩提樹の香りがカナン一杯に広がっていました。また、「イエスの御苦しみの園」の小道には、葡萄のような小さな実をつけた植物の葉が、まるでイエス様が流された血を吸い込んだかのように所々赤く染まっており、主が歩まれた十字架の道を偲んでいるかのようでした。

前回のメルマガでお分かちさせていただいた主との交わり以来、私は朝ごとに、幼な子のように無心で主の御前に出させていただくようになりました。そして、祈りとみことばと瞑想を通して、主の語りかけに耳をすますと、ほんとうに主はしみじみとお語りくださるのです。マリア姉妹会での5日間の静思の時には、主の愛はさらに輝きを増し、心に大きな喜びが沸き上がるようになりました。以前よく口ずさんでいた賛美歌、Die Freude am Herrn ist meine Kraft「主にある喜びこそわが力」が、私の内側に真実なものとなって、口からほとばしり出るようになりました。

ここで示された思いは、「初心に戻る」でした。つまり、「はじめの愛」(無心の愛)をもって、主の十字架と一体となりながら、苦難・弱さを通して現される主のご栄光を、賛美と証しを通して皆様にお伝えしてゆこうと思われたのです。そして、姉妹会で過ごさせていただいた最後の夕べには、主はその思いに確認の印を押すようなひとときを与えてくださいました。

(写真右:カナン「ヤコブの井戸」の前で)

## ●愛の炎、セヴェリン師

ロシア人を愛し、ロシア人にキリストの愛と救いを伝えておられるスウェーデン人のカール・グスタフ・セヴェリン宣教師が、ウクライナ伝道の後、6月15日、姉妹会に静養に來られました。そしてその夜、セヴェリン師は特別に、シスターと私たち来訪者に、彼の伝道の働きを証ししてくださいました。



スウェーデンのウブサラに住んでいたセヴェリン師は、25年前に「ソ連へ行け」という内なる主のみ声を聞きました。何度もロシア人に侵略されてきたスカンジナビアの人々は、「ロシア人が来る！」といつも恐れてきました。彼は「それなら今度は教会がロシアへ出向いて行く」と、御霊の力をもって(使徒 1:8)ロシアへ向かったのです。(写真の左側の男性がセヴェリン師。右側は通訳のフランシスコ兄弟会のブラザー)

シベリアでの伝道中に警察に捕まった時には、まるでサウロのように、残虐な KGB (ソ連の秘密警察) の一員から激しい迫害を受けました。しかし、主は劇的にその人の心を変えてくださり、セヴェリン師



に、KGB が持っていた40両の列車を伝道のために使ってよいという許可を与えます。「ゴスペル・トレイン」と名付けられたその列車は、たくさんの聖書を積み込み、数人の牧師と共に、アバカンからハバロフスクまでの町々に停車してはみことばを宣べ伝えました。そして、何十万もの人々がキリストを受け入れたのです！その中には警官もいました。テレビにも放映されました。それでも彼は捕まりませんでした。後に彼が警察に、「どうして私を捕まえなかったのですか」と尋ねたとき、警官はこう答えたと言います。「あなたは私たちの国を

大きく変えてくれたから」。

セヴェリン師が証しする間中、彼からほとばしり出るキリストとロシア人への燃える愛に、私は圧倒されそうでした。キリストへの愛に美しく輝いているシスターたちでさえ、「彼の愛の炎が私たちにも飛び火しました」と告白するほどでした。にもかかわらず、彼からおごった態度はひとかけらも見受けられず、謙遜さがからだ全体からにじみ出ているのでした。セヴェリン師の、愛と涙と信仰の宣教は、まさ

しく使徒行伝の現代版でした。そしてパウロとは、もしや彼のような人ではなかったのかと思わされるほどでした。

会が終わってから直接お礼を言わせていただいた時、まるで幼な子のような純真な目で私の顔をじっと見ながら、「日本も緊急に福音を必要としている国ですね」と語るセヴェリン師に、「その通りです」と答えた時、AKMM を設立したときに受けた主からの同じ語りかけが、再び心に響いてきました。

みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりとやりなさい。(Ⅱ テモテ 4:2)

全世界へ出て行き、すべての人に福音を宣べ伝えなさい。(マルコ 15:15)

(写真左上:「イエスの御苦しみの園」)

---

現在、祈りとともにコンサートの準備を進めています。特に、8月のブラジル賛美伝道のためにお祈りください。多くの辛苦をなめてきたブラジル移民と、二世、三世の皆さんが、真の救い主、癒し主であるイエス・キリストを見出すことができますように！

主のご愛と喜びが、皆様とともにありますように。

工藤篤子

\*\*\*\*\*

事務局より《新刊のご案内》



工藤篤子著 「賛美のこころ」 Heart of Worship …主のみ顔を仰ぎつつ

多くの人々は、世界各地で活躍中の地中海ソプラノ賛美歌手工藤篤子の人生背景に深い関心をもっています。この新刊は、そういう方々に静かに語りかけてくれる良書です。神が一人の歌手を召し出し、世界各地でどのように用いておられるかその奥義を知ることができます。多くの方々の必読の書です。どうぞご購入くださいますようお願いいたします。

出版社 イーグレイプ  
定価 1575円(税込み)

出版予定時期 7月上旬

ご注文、お問い合わせは、キリスト教書籍を扱う書店、または事務局まで。

◎また次のサイトから、「賛美のこころ」コーナーが掲載されていますので、是非ご覧下さい。

<http://www.bmp.jp/kudo/01.htm>